

① 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58-30964

⑤ Int. Cl.³
B 65 D 83/14

識別記号

庁内整理番号
7617-3E

④ 公開 昭和58年(1983)2月23日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

④ 注出器

大阪市西区南堀江 2 丁目 13 番 26
号 木村新株式会社内

② 特 願 昭56-129780

① 出 願 人 木村新株式会社

② 出 願 昭56(1981)8月19日

大阪市西区南堀江 2 丁目 13 番 26
号

⑦ 発 明 者 松田桂一郎

明 細 書

1. 発明の名称

注出器

2. 特許請求の範囲

外気の導入を許す逆止弁と、元の形状に弾性復元するハンドポンプ操作部とを備えたケース内に、このケース内と気密に隔離して薄膜袋を内装し、この薄膜袋内の内容物を前記ケース外に導く注出路を設けて成る注出器。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、粘性の高い物質、例えばペイント類、マヨネーズ状の各種食品、化粧料、等をハンドポンプ操作によつて必要量だけ注出口より注出させる事のできる、容器状の注出器を提供するものである。

以下、手動ペイントポンプ付き塗装器に応用した本発明の一実施例を添付の例示図に基づいて説明すると、第1図において1はケース本体、2は塗装用ローラー、3はローラー支持管兼用の塗料供給管であつて、ケース本体1の上端キャップ4

に一端が取り付けられ、他端は、ローラー2を回転自在に支持すると共に内部から塗料を注出する塗料注出管5の一端に接続されている。

第2図及び第3図に示すように、前記ケース本体1は、例えばポリエチレン樹脂にて成形されたもので、下半部に元の形状に弾性復元する蛇腹状のハンドポンプ操作部6を備え、上半部は直径がやや細い円筒状首部7となり、その上端には、前記キャップ4が螺嵌する雄ねじ部8が成形されている。8は首部7の上端近傍に付設された逆止弁であり、外気の導入のみを許す開閉弁体10を備えている。11はポリエチレン樹脂等から成形される薄膜袋であつて、前記ケース本体1内に装入されると共に、雄ねじ部8より突出連設された小径筒部12に、薄膜袋11の口周辺部11aが折り返されて外嵌され、その外側にリング13が、小径筒部12の環状凹溝内との間で薄膜袋11の口周辺部11aを挟み込むように、取り外し可能に嵌合されている。

前記キャップ4には、ケース本体雄ねじ部8に

螺嵌締結したとき、前記のようにケース本体1内にセットされている薄膜袋11の口周辺内側に密嵌する、先端程薄肉となつたシール用環状突出部14と、薄膜袋11の内部に挿入される注出管15を接続した管継手部16とが内側に突設され、外側には、前記塗料供給管3の角パイプ状基部3aが密に嵌入する管継手部17と、該角パイプ状基部3aに形成した凹部に嵌合する抜け止め用小突起18とが突設され、塗料供給管3と注出管15とが、両管継手部16、17内の流路19を介して連通するように構成されている。

使用方法について説明すると、ペイントを所定量充填した薄膜袋11を前記のようにケース本体1内にセットし、キャップ4を締結する。ローラー塗装するに際しては、ケース本体1のハンドポンプ操作部6に対し、一般のエアーボール式ハンドポンプを操作するときと同様に、握り込み操作と弛緩操作とを繰り返す。この結果、握り込み操作時には、ケース本体1と薄膜袋11との間の空所20の空気が外界には逃げられないので、空所

20の空気が圧縮され、薄膜袋11を介してその内部のペイントが加圧される事になり、ペイントは注出管15、流路19、塗料供給管3、及び塗料注出路5から成る注出路を経て、ローラー2内に注出される。ハンドポンプ操作部6に対する弛緩操作時には、逆止弁9より外気を取り入れ乍らハンドポンプ操作部6が弾性により原形に復元し、薄膜袋11は、ペイントの粘性が高いため、ローラー2側より空気を取り入れて原形に復する事はなく、ペイント注出後の縮小変形したボリュームを略保っている。

従つて、ハンドポンプ操作部6に対して、上記の握り込み操作と弛緩操作とを繰り返して行なう事により、薄膜袋11内のペイントは、握り込み操作に連動して略一定量づつローラー2に送り込まれる事になる。実際の塗装作業時には、ローラー2を被塗装面上に押し付けて転動させ乍ら、適時に前記のハンドポンプ操作部6に対する操作を加えて、ローラー2にペイントを補給する事により、所望ローラー塗装が行なえる。

尚、長時間放置した場合は、ケース本体1を垂直に立てている事により、ローラー2までの注出路内のペイントが重力によつて薄膜袋11内に逆流し、ローラー2側から空気を取り入れて薄膜袋11が原形に復する事も考えられるが、このような場合でも、ハンドポンプ操作部6に対する前記反復操作を繰り返す事により、薄膜袋11から空気を排出してペイントをローラー2へ送り込む事ができる。勿論、このような薄膜袋11の原形復帰を防止するため、流路19内や、その他注出路内の適当箇所に、注出方向への流通のみを許す逆止弁を介装したり、逆止弁9として、強制常閉の精度の高いものを使用して、空所20内を完全に気密に保持できるように構成する事ができる。

又、実施例の場合、ローラー2に代えてブラシを注出路出口に装着する事ができるが、本発明は、手動ペイントポンプ付き塗装器以外にも応用する事ができ、注出物の用途に応じて、注出路出口に適当なアタッチメントを装着すれば良い。

本発明の注出器は、以上のように実施し使用し

得るものであつて、ケース本体に形成したハンドポンプ操作部に、握り込み操作と弛緩操作との繰り返しから成るハンドポンプ操作を加えるだけで、粘性の高い内容物を適量づつ注出する事ができる。しかもケース本体の外形は、内容物の量の変化に拘わらず一定であるから、非使用時にケース本体を立てておく事ができる等、取り扱いが容易である。又、薄膜袋が万一破損しても、ケース本体内に内装されているので、内容物が外部に流出する事がなく、安全に且つ衛生的に使用し得る。さらに、薄膜袋が空になれば、内容物を充填した新しい薄膜袋と交換する事によつて、内容物の詰め替えが可能であるから、経済的であると共に、詰め替え作業も容易に行なえる。

勿論、空になつた薄膜袋11内に、キャップ4を外して内容物を充填するようにしても良い。この場合、薄膜袋11は、ケース本体1に固着しても良い。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明一実施例を示す正面図、第2図

はそのケース本体の上半部を示す縦断面図、第3図は同下半部を示す縦断面図である。

1…ケース本体、2…塗装用ローラー、3…塗料供給管、4…キャップ、8…ハンドポンプ操作部、9…逆止弁、11…薄膜袋、13…Oリング、14…シール用環状突出部、15…注出管、16、17…管継手部、20…空所

特許出願人 木村新株式会社

